

様式2 【生活様式などの無形のもの】

ふくしまの森林文化調査カード

県 HP公開 (可・否)

区 分	1. 森づくり 4. 森と暮らし	2. 森の恵み 5. 森の文化財	3. 森と技 6. 森の風景
分野 (ふりがな)	(分野) 生業	(ふりがな) なりわい	
地域独特の呼び方			
タイトル	鋸鍛冶		
伝承地域	会津若松市		
由 来	<p>(いつ、どこで、誰によって起こり、どのようにして現在まで (いつまで) 伝えられてきたか)</p> <p>会津鋸は安土・桃山時代、藩主蒲生氏郷公が、大規模築城や城下町作りを行うため、当時鋸の一大産地だった西日本から鋸鍛冶を呼び寄せ、地元の鍛冶職人達にその技術を習得させたことが始まりと言われている。</p>		
内 容	<p>(内容と共に、行事・祭りの場合は実施の時期、郷土料理の場合レシピなども)</p> <p>会津藩は鋸を産業奨励策の一つとし、会津では鋸の製造が盛んになった。会津の優れた鋸鍛冶技術は、越後や江戸へと伝わっていったと言われている</p> <p>明治時代には、刃渡り2尺を超える大きな窓鋸が生産されるようになり北海道の開発などに多く使われた。</p> <p>しかしその後昭和30年ごろにチェーンソーの登場や建築工法の変化などで手引き鋸の需要が減少し、さらに大量生産の安い鋸が出回るようになり鋸鍛冶は次々と廃業していった。</p> <p>多い時には三十数軒あったという会津鋸鍛冶屋も、現在では会津若松市相生町(あいおいまち)にある「中屋伝左衛門(なかやでんざえもん)」だけとなり、その3代目である五十嵐征一さんが一人、会津鋸を受け継いでいる。</p>		
文化財等の指定状況	平成27年「森の名手・名人100人」((公社)国土緑化推進機構)に選定		
問い合わせ先	電話		

【継承活動を行っている方がいる場合】

個人	氏名（ふりがな）	五十嵐 征一	※顔写真がありましたら、コピーか電子ファイルをご恵願います。
	性別・年齢	男・女	
	生年月日	昭和 19 年 生	
	住所・電話	会津若松市相生町	
	職業		
団体	団体名（ふりがな）		
	代表者氏名（ふりがな）		
	団体の設立年月日	明治・大正・昭和・平成	不明 年 月 日
	問い合わせ先		電話

【フリーフォーマット】※表面に記載した内容に関連したことを自由に記入してください。

キーワード



コミ曲げ

鋸の柄に入る部分をコミという。
コミ曲げはコミの部分を火で焼き鋤で叩いて形を作る。



目立て

目の大きさに合ったサイズのヤスリを使い1本1本丁寧に刃を付けていく。



窓鋸

窓鋸は刃が大きく空いた部分に木くずが押し込まれ、外に運び出されるため鋸のとおりが良い。

活動の様子が分かる資料等があればコピーをご恵与ください。